和歌山県立博物館　特別展「きのくに 刀剣ワールド」 展示のみどころ

南北朝時代以降、紀州では局地的な戦闘がしばしば起こったことから、武器の需要が高まり、刀剣の制作が行われるようになったと考えられています。室町時代～江戸時代における紀州の刀剣は、大和国（奈良県）の影響を受けることが多く、直刃（直線的な刃文）の堅実な作品が中心で、刃文が派手なものは、あまり多くありません。

（1）紀州で作られた最古段階の日本刀

現在は三重県熊野市紀和町内ですが、かつての紀伊国牟婁郡入鹿荘で制作された短刀です。大和から移住した刀工の第２世代（室町前期）の作品です。加賀藩主･前田家旧蔵と伝えられています。
〔短刀 銘 入鹿實次（個人蔵）〕（展示番号 1）

（2）紀伊徳川家お抱え刀工の作品

重国は、初代藩主・頼宣のころから、江戸時代を通じて、11 代にわたって紀伊徳川家に仕えた刀工です。この作品は、初代重国による美しい姿の刀です。
〔県指定文化財 刀 銘 於南紀重国造之（和歌山県立博物館蔵）〕（展示番号 18）

（3）江戸時代の人気刀工の作品

大和守安定は、一族の出身地が富田浦付近（白浜町）であった刀工です。一時期和歌山でも制作していましたが、江戸に移りました。作品は「業物」（良く切れる刀）として有名で、江戸の武士に人気がありました。〔脇指 銘 大和守安定（和歌山県立博物館蔵）〕（展示番号 29）

（4）刀装具–武士のおしゃれ

武士が大切にした刀剣の、外装を飾る金具が刀装具です。和歌山城下にも刀装具を作る職人が住み、武士の趣向にあわせて繊細な作品を作っていました。これは目貫といい、柄の表裏に付けた金具です。〔十二支目貫 銘 藪常之（個人蔵）〕（展示番号 43）

＊日本刀は、反り方や刃文、プロポーションなどが、同じ刀工の作品でも１本ごとに異なっています。また、それぞれの時代の流行もあるので、刀剣の「個性」を感じることで、鑑賞を楽しむことができます。